

世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 拠点の持続的な成長・発展に向けた制度改革について (案)

2024年6月

文部科学省

基礎・基盤研究課

背景・課題

- ✓ 10年のWPI補助支援のあと、持続的に補助支援中と同規模以上に拠点を維持・成長させることは容易ではない。10年目前後で、優れた海外研究者、専門人材等を継続的に確保できない場合があり、**10年かけて培ってきた「拠点としての価値」の一時的な低下**が見られる。

ねらい

拠点の成長モデルの構築

- … 長期的活動を可能とする**予見性を高める**
拠点を成長・発展していく**資金の好循環モデル**を構築

国費投入の価値最大化

- … 「拠点としての価値」の**一時的低下を回避**

知的アセットの価値化

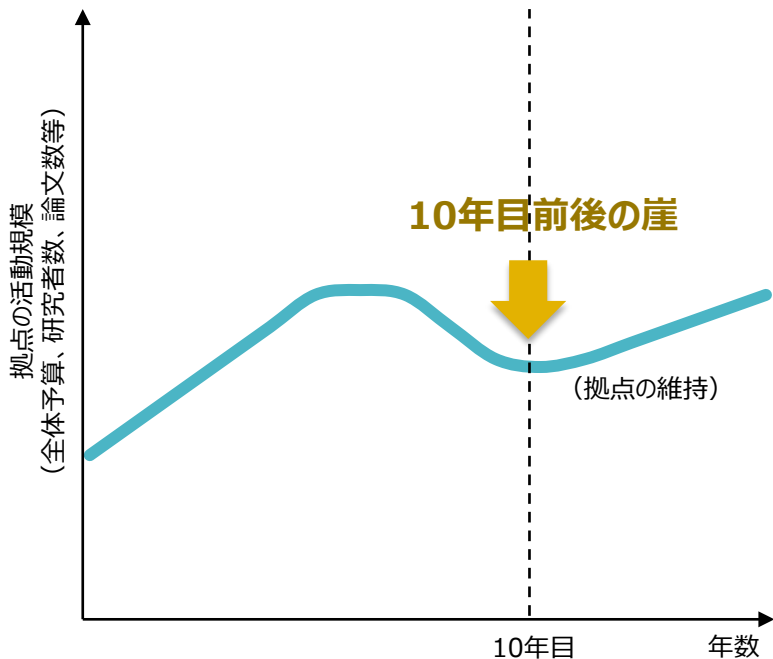
- … 基礎研究の**知的アセット（有形・無形の知的資産）の適切な価値化**

留意事項

- ✓ 大学等（学長等）による**拠点の自立化・内製化のコミットメントに変更はない**。引き続き果たしていただく。
- ✓ WPIは基礎研究の国際研究拠点。直ぐに**産業応用できる研究へのシフトを促す趣旨では全く無い**。

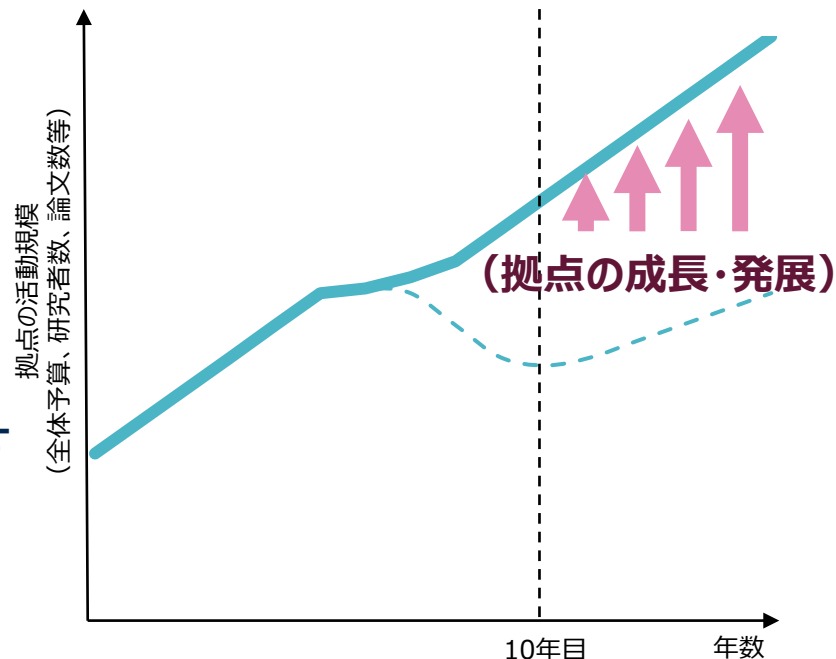
拠点の成長・発展モデル（イメージ）

これまでのWPI拠点



WPI拠点の
価値最大化を促す

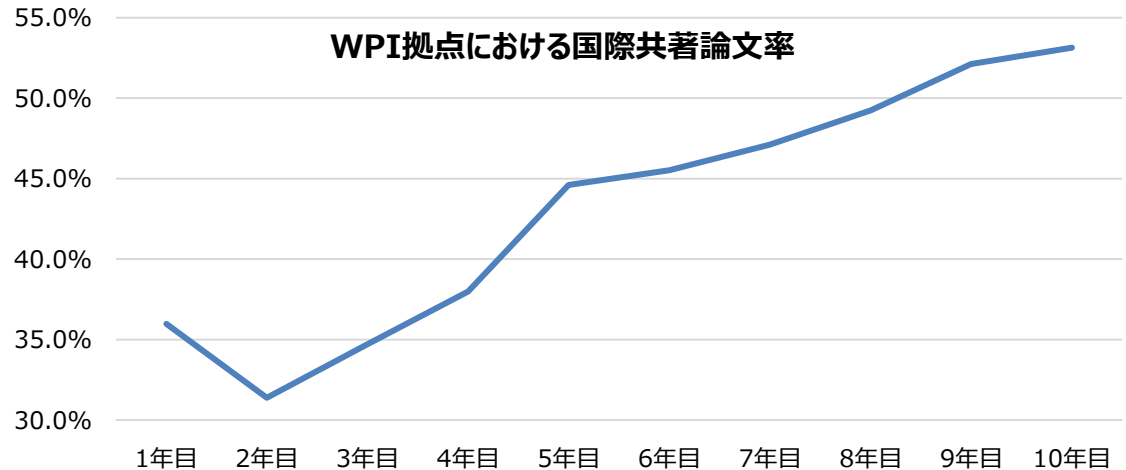
今後のWPI拠点



国際性の創出

- ✓ 10年間支援の**最終年度にかけて、国際的な研究成果が創出**

10年間の補助支援を安定的に行うことで国際性が培われ、その後の継続的な国際的な研究活動を実施するための基盤が確立



出典：委託調査報告書より文科省にて作成
※2007年度及び2010年度採択拠点データ

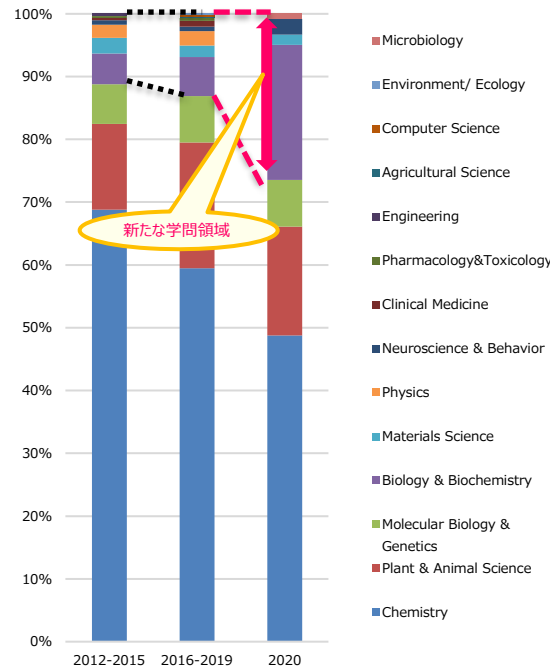
融合研究の創出

- ✓ 10年間支援の**最終年度にかけて、融合研究が創出され、我が国発の新たな学問領域が創出**

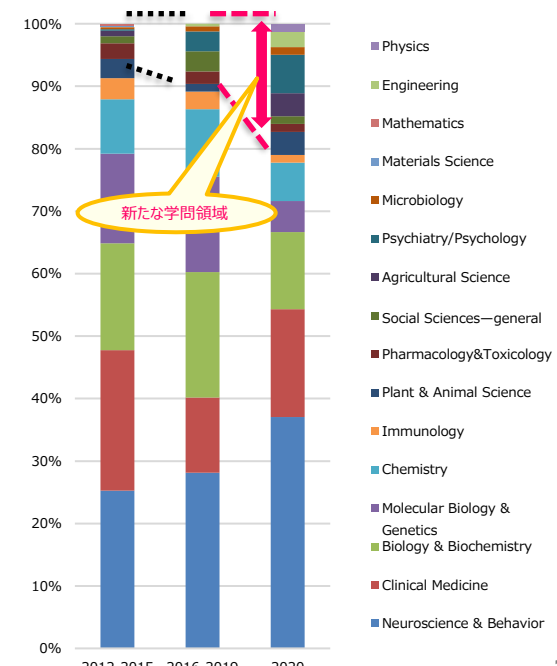
最終年度にかけて、拠点形成開始時に主力分野であった分野同士の融合が進み、新たな学問領域の割合が増加

安定的、かつ継続的な支援が融合研究の創出につながり、その後のハイレベルな研究活動の基盤に

ITbMの創出論文の分野別割合



IIISの創出論文の分野別割合



- ◆ 最低でも、10年程度の“国のコミットメント”が、世界から優秀な人材を惹き付ける「国際頭脳循環のハブ」を創る
- ◆ その後の、自立化・内製化の礎（WPI拠点としての価値）を確立

少なくとも10年以上の「安定的」「継続的」支援が不可欠

ポイント

WPI拠点の持続的な成長・発展までを見込んだ、

- より適切な「支援期間」の再設定

WPI拠点形成の後半に、

- 支援終了後を見据えた資金計画の「予見性」の確保
- 拠点支援の「安定性」と「柔軟性」の両立

その際、WPI拠点のみならず、ホスト機関に対し、組織のシステム改革を促し、
持続的に発展・成長し続ける形での、
拠点の自立化・内製化の取組みを促進させる仕掛け（インセンティブ）を設ける

現 状

今 後

■ WPIミッション

- 2020年12月に新たなミッションを策定

- WPIのミッションを変更する必要は無く、**修正・変更無し**

■ 支援期間

- 10年間
 - 最低でも、10年程度の“国のコミットメント”が、世界から優秀な人材を惹き付ける「国際頭脳循環のハブ」を創る
 - 「自立化・内製化の礎」まで
 - 5年目に中間評価、10年目に最終審査

- **最大15年間（10年+最大5年）**
 - WPI拠点の「持続可能な成長・発展」まで、一貫通貫の支援期間
 - 10年：安定的な支援
 - 5年：外部資金の獲得額等に応じマッチング支援（マッチングインセンティブ）
※拠点の計画内容に応じて柔軟に支援期間を変更
 - 5年目に中間評価、**10年目に認定評価（成長・発展計画の評価を含めたWorld Premier Statusの認定）**、15年目に最終評価（支援終了後の拠点の展望把握）
- ※ 毎年のフォローアップで成長・発展計画の進捗を確認することで、各WPI拠点は、11年目以降の支援の予見性を確保

■ 予見性

- 11年目以降の、中長期的な資金計画の見通し困難

- 7年目又は8年目^(※)に、WPI拠点にて「**成長・発展計画**」を策定
- 「成長・発展計画」は、プログラム委員会において厳正に審査
- WPIの3つのミッションの達成及びさらなる卓越に向けた取組、ホスト機関からのコミットメント、「成長・発展計画」策定時点から16年目までのリソース計画など、拠点の持続可能な成長・発展の実現計画
- WPIプログラム委員会にて審査・承認（否認や再審査もあり得る）

■ 安定性と柔軟性の両立

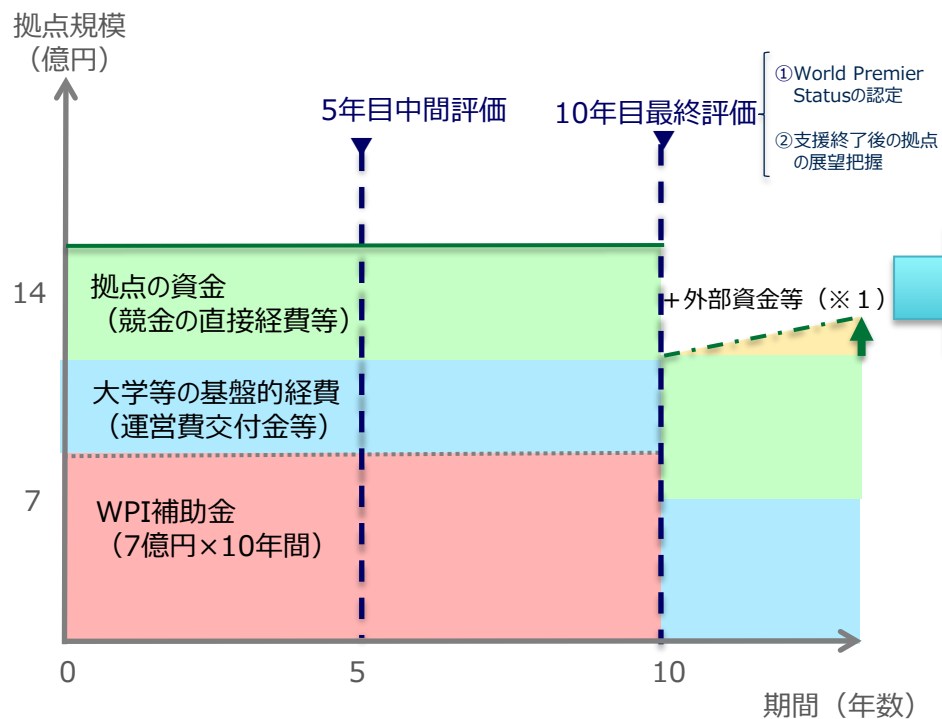
- 7億円/年×10年間
 - 11年目に資金計画の崖
 - 各年度の柔軟な予算執行が困難（年度途中で、多くの外部資金収入があった場合など）

- **7億円/年×10年間 + 最大3億円/年×最大5年間のマッチング支援を基本に、柔軟に予算措置**
- 計画策定以降、「成長・発展計画」に基づき、各年度の補助金額を上記に依らず、**支援総額の範囲内で、柔軟に措置可能に**
- 11年目以降、それまでの外部資金の獲得額等に応じ、最大3億円/年のマッチング支援（再掲：基幹経費化、外部資金の獲得増のインセンティブに）
※拠点の計画内容に応じて柔軟に支援期間を変更

(※) 例外的に、H29年度採択拠点は9年目に、H30年度採択拠点は8年目又は9年目に策定

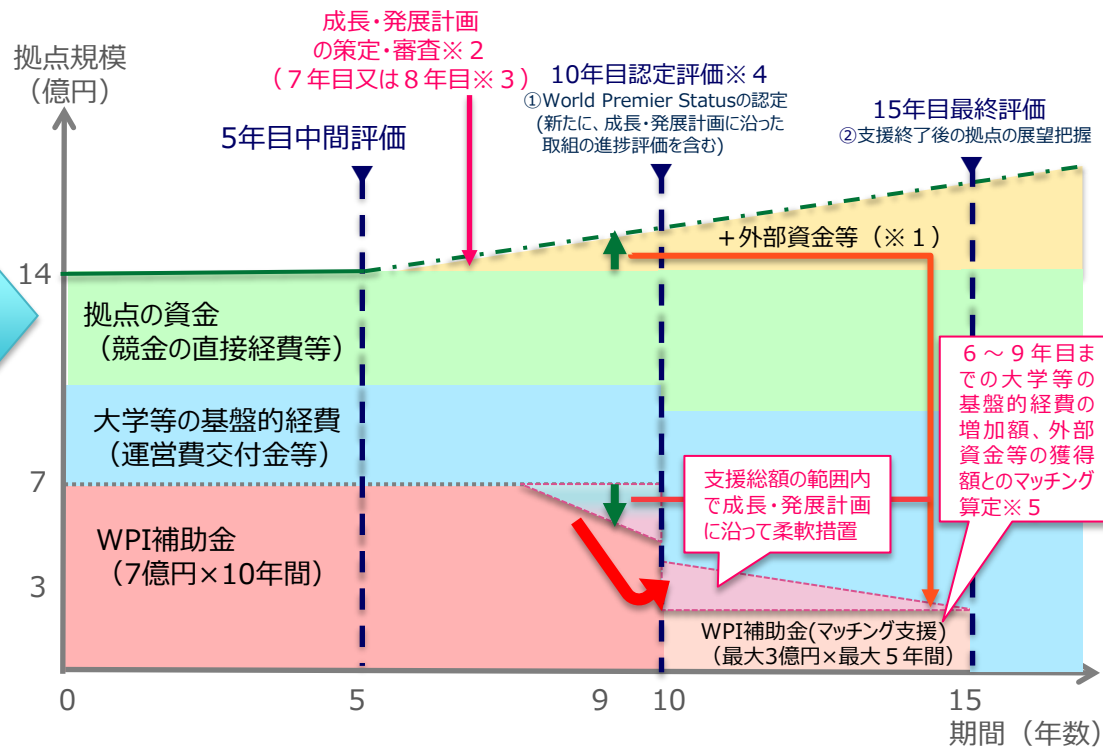
【現 状】

WPI拠点
拠点の価値確立 = 自立化・内製化の礎まで



【今 後】

WPI拠点
拠点の価値確立 / 持続可能な成長・発展まで



- ※1 民間等の外部資金 (国・FA由来の資金を除く)
- ※2 毎年のフォローアップで成長・発展計画の進捗を確認することで、各WPI拠点は、11年目以降の支援の予見性を確保プログラム委員会において審査・承認
- ※3 例外的に、H29年度採択拠点は9年目に、H30年度採択拠点は8年目又は9年目に策定
- ※4 9年目末～10年目始めの時期に実施
- ※5 マッチング支援額は、拠点の計画内容に応じて柔軟に支援期間を変更

策定の目的

WPI拠点が我が国における国際頭脳循環や研究力の強化に資するハブとして、WPIプログラムからの10年間の支援期間終了後も**世界トップレベルの拠点としてさらなる成長・発展を持続的に実現するための拠点構想及びリソース計画を明確化するため**、各拠点が「成長・発展計画」を策定する。

「成長・発展計画」の内容

- 1) 国際的に「目に見える」拠点としてさらなる成長・発展を持続的に実現するための**11年目から15年目までの拠点構想**
 - a. これまでの成果に基づく11年目から15年目までの研究課題・戦略（16年目以降の展望も含む）
 - b. 国際的な頭脳循環に資する研究環境整備の計画（ダイバーシティに関する計画を含む）
 - c. 拠点における研究システム改革の取組計画及びホスト機関への波及効果
- 2) 上記を実現するための、「**成長・発展計画**」策定時点から**16年目までのリソース計画**
 - a. 16年目までの資金計画
 - b. 拠点長の人選方法や拠点の構成員の人選も含めた人事計画
 - c. ホスト機関の中長期展望における拠点の位置付けを含めたホスト機関のコミットメント計画

審査プロセス (イメージ)

7年目又は8年目^(※1)
(拠点の準備状況に依る)
WPIプログラム委員会

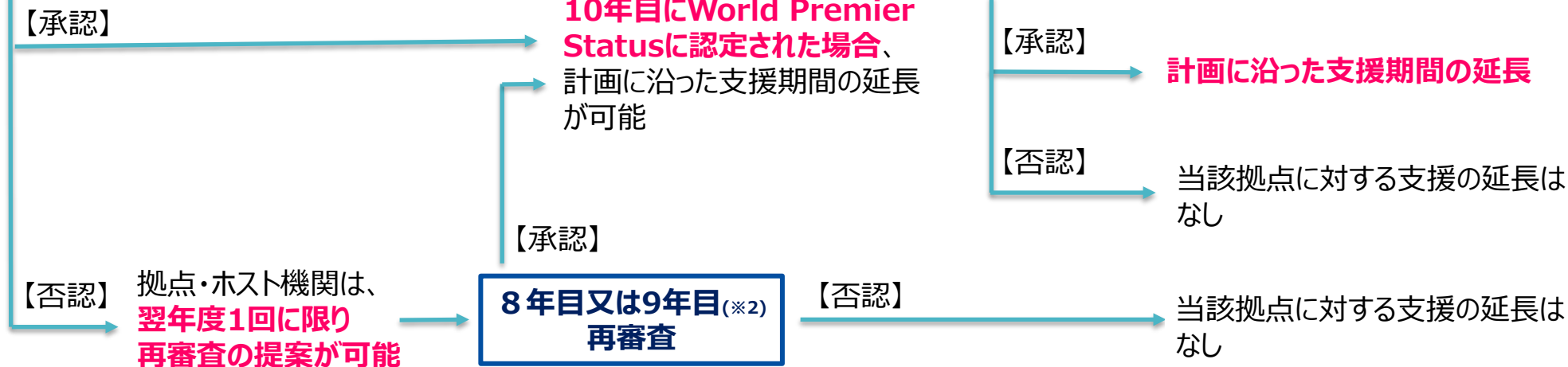
10年目
WPIプログラム委員会

成長・発展計画の策定・審査

- ・拠点が委員会に計画案を提出
- ・委員会における厳正な審査

World Premier Statusの認定審査

World Premier Statusの認定
成長・発展計画に沿った取組の進捗評価を含む



(※1) 例外的に、H29年度採択拠点は9年目に、H30年度採択拠点は8年目又は9年目に策定
(※2) 例外的に、H29年度採択拠点は10年目に、H30年度採択拠点は9年目又は10年目に実施